

各事業のロードマップ(19期)

19期の基本的な活動方針：18期に引き続き、19期も国内における応用的・実践的なスポーツ栄養学の基盤づくりと発展を目指す。この方針を全ての委員会および事業の根幹とし、19期の事業計画を遂行する。

委員会	中期的目標 (19-20期)	18期に対する評価		19期の目標	
研究誌編集	<ul style="list-style-type: none"> 研究と実践活動の両方の報告を含む独自性のある学会誌としてのプレゼンス向上 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> 掲載本数 18 本（原著・短報 8 本、事例報告 5 本）を達成した。 研究・教育支援事業運営員会と協力し、サプリメント号の発刊を行った。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 総掲載数 10~20 本を目標とし、第 19 号を発刊する。 研究・教育支援事業運営員会と協力し、サプリメント号を発刊する。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> 第 10 回大会発表者に対し声かけを行い、論文投稿を促した。 サプリメント号の編集作業に関して、Editorial Manager 運用方法について協議した。 J-stage 及びメディカルオンラインに論文の掲載を開始した。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 学会大会等での発表者に対し、論文（ショートレポートを含む）の執筆を促し、必要な支援を行う。 研究・教育支援事業運営員会と研究誌（サプリメント号を含む）の編集作業にかかる委員の増員、情報共有および査読者養成の検討などを行う。
研究・教育支援事業運営	<ul style="list-style-type: none"> 実践活動報告の発信に向けた各種講習会による支援体制づくり スポーツ現場に還元できるエビデンス構築のための体制づくり 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> 研究誌編集委員会と協力し、前期目標どおり 2024 年 8 月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号（ショートレポートを 9 本掲載）を発刊した。 スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供（更新研修・セミナー各 1 回）を行った。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究誌編集委員会と協力し、2026 年 8 月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号（ショートレポートを 10 本程度）を発刊する。 スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供（更新研修・セミナー各 1 回を行う）。 研究評価支援委員会では、研究誌編集委員会と協力して査読者養成を行う。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> 2024 年 11 月に希望する会員を対象に第 4 回ショートレポート執筆マッチング企画を実施した。参加人数は第 1 ~ 3 回よりも減少したが、4 組のマッチングが成立し参加者の満足度は高い企画であった。 投稿されたショートレポートに対する執筆指導および査読を随時行った。 2024 年 9 月の第 10 回大会において、執筆マッチング企画に関するシンポジウムの開催、及びマッチング希望演題表記を採用した。 ショートレポートの投稿数増加に応じて、査読体制の拡充に対応するために投稿・査読体制に研究誌本誌と同じく Editorial Manager を導入するための準備を進めた。 2024 年 11 月に更新研修、12 月にセミナーを開催した。参加者は延べ人数で更新研修 1217 名、セミナーは 49 名であった。また、今後の講習会に対するニーズや課題を検討するため、アンケートを実施した。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 2026 年 2 月と 2026 年 8 月を目標に希望する会員を対象にオンラインまたは対面で、ショートレポート執筆支援企画（マッチング企画、執筆相談会）を実施する。 2025 年 8 月にスポーツ栄養学研究セミナーを対面にて開催する。また、2025 年 11 月に公認スポーツ栄養士更新研修をオンデマンドにて開催する。講演内容については、公認スポーツ栄養士および学会員に向けた実践活動報告の推進を主軸とする。一方で、参加者の学びと実務への応用を促進するため、訴求力の高い講習会運営を行い、参加者の専門性向上を目指す。 査読の手引きを作成する。手引きを基に対象者（博士号取得から数年程度）が査読を実施できる環境整備を行う。

渉外	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体との連携をよりスムーズに行う。 ・可能であれば、新規団体との連携を模索する。 ・臨スポとの合同シンポジウムのあり方を引き続き整理していく。 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・第18期では、日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムを日本スポーツ栄養学会第8回大会にて「地域における多職種連携」というテーマで開催した。これまでより地域に着目したテーマであったことから、両学会より2名ずつ登壇した演者には、質疑応答だけでなく終了後も参加者からの質問が続き満足度の高い研修となった。 ・日本栄養学術連合では定期的に東京栄養サミット2021のコミットメントの対応について確認し、必要事項の報告や会議への出席を行った。また日本スポーツ体育健康科学学術連合、健康日本21連絡協議会の定例会議にも、庶務と連携して会議に出席し状況確認を行った。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他学会との意見交換や共同企画を通じて、より効果的な連携方法を確立する。 ・東京栄養サミット2021コミットメント関連の活動において、関係団体との連携を円滑かつ誠実に進める体制を維持・発展させる。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・東京栄養サミット2021のコミットメントの対応も、引き続き進める。 ・これまで連携のなかった学会等から後援依頼の相談が届いていることから、情報収集を試みる。 ・日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムは引き続き継続して開催する。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学会大会での成果を整理し、東京栄養サミット2021コミットメントの進捗や課題に反映させていく。 ・他学会の活動や情報を収集し、会員への共有方法とその効果について検討する。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流推進の意義を理解できる会員を増やす。 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・第17期の活動報告をJSNAのHPに掲載した。 ・JSNA第10回大会で国際交流セッションを開催し、公益財団法人日本ゴルフ協会所属の指導者にご講演いただいた。 ・PINESから届く全てのE-Newsの抜粋翻訳を行いJSNA会員に発信した。 ・3名のJSNA会員の活動記事をPINESに提供した。 ・PINESのMember Connect Sessionで、国際交流委員の1名が演者として出席した。 ・KSENが発行している国際誌Journal of Physical Activity and Nutritionに掲載されている論文情報を2回JSNAの会員に発信した。 ・KSENが2025年4月に開催する学会情報をJSNAの会員に発信した。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流活動に関心を持ち参加・協力してもらえるJSNA会員を増やす。 ・PINESとは相互的かつ定期的な情報発信を継続する。 ・KSENとは学術交流活動の活性化に向けた取り組みに向けた意見交換を実施する。 ・国外のスポーツ栄養に関わる研究者やスポーツ栄養士との交流を模索・促進する。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・PINESとの関係は良好である。PINESの発信する記事をJSNAが翻訳するほか、JSNAから提供したオリジナルの記事を世界各地のPINES会員に向けて発信いただくなど、PINES内におけるJSNAのプレゼンスを高められている。 ・JSNA会員によるPINES入会・更新のためのディスカウントコードは入手しているが、PINESのウェブサイトがリニューアル中のためJSNA会員に周知が行えていない。PINESと密な連携を取りながら適切なタイミングで情報を発信する。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第18期の活動報告をJSNAのHPに掲載する。 ・PINESから届く全てのE-Newsの抜粋情報と、PINESが発信している記事を年間2-3編翻訳して学会員に発信する。 ・PINESに対してJSNAから1編以上の記事（学会報告やFeature article、Fact sheetなど）を提供する。 ・KSENの学会情報をJSNA会員に提供する。 ・KSENが発行している国際誌Physical Activity and Nutritionに掲載された論文情報をJSNA会員に提供する。 ・第19期中に国際交流イベントを実施する。

		<ul style="list-style-type: none"> KSENとの交流が少しずつ再開できている。19期にはさらに交流の頻度や手段について検討していく。 JSNA内で国際交流活動を広く周知するため、19期および2026年の第12回大会での国際交流の企画について検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 2026年（会計年度第20期）に開催される第12回大会での国際交流セッションの開催に向けた準備を進める。
認定事業運営	達成度	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ現場においてPDCAサイクルに則った実践活動ができる公認スポーツ栄養士を養成する。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 公認スポーツ栄養士の検定試験合格率向上と合格に向けたフォローアップを継続して実施し目標は達成した。合格率は増加傾向であるが、詳細な追跡調査が必要である。 ベーシック講習会は、滞りなく運営した。今期より、質問受付フォームを設置し、講義終了後の質問者へ対応した。 養成講習会テキスト改訂作業は、市村出版と学会執行部の打ち合わせがもたれ、執筆者依頼の段階に入った。2026年度受講生からのテキスト利用を目指し進めている。
	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> 2024年8月に専門講習会事前説明会（新規受講者説明会）を開催し、参加者は70名であった。 2024年9月、学会大会内で専門講習会受講者交流会を開催し、132名の参加があった。 2024年4、10月にサテライト講習会を開催し、25名、10名の参加があった。 2024年8月と2025年1月に再検定試験を実施した。 2024年10月に検定未受験者に検定試験未受験者へ検定準備講座再受講の機会を設けた。ベーシック講習会を2024年12月にオンラインで開催し、179名が受講した受講者アンケートを実施した。 講習会運営に関するマニュアル整備のための具体的なスケジュールを立て、進める。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 公認スポーツ栄養士養成講習に関しては、新規受講者説明会、受講者交流会、検定未受験者に検定準備講座参加機会、サテライト講習、再試験を実施する。 公認スポーツ栄養士検定試験に関する規程を作成する。 ベーシック講習会を2025年12月にオンラインで開催する（3日間、受講者定員180名）。2024年度の一部講義未受講者が再受講を希望した場合、テキスト代のみで当該講義の受講を可能とする。
ホームページ・広報	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを通じた学会活動の情報発信と見える化の充実 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施に向けて計画を策定し、倫理申請の承認も得ることができた。 通期で安定的に情報発信を行うことができた。
	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> 2025年3月までにアンケート実施に向けた計画を策定し、倫理申請の承認も得ることができた。アンケート項目も大凡確定し、実査に向けたweb調査ページの作成を行っている状況であり、計画通り順調に進んでいる。 発信フローに則り、順調に情報発信を行うことができている。 HP全体を見直し、発信情報の更新や確認を行うことができている。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 2026年1月までに公認スポーツ栄養士の活動実態に関するアンケート結果を、日本スポーツ栄養研究誌ならびに学会大会、HPで公開する。 HP、メールニュースにて継続的に学会の情報発信を行う。 2026年1月までに公認スポーツ栄養士の活動実態に関するアンケート結果を論文として取りまとめ、日本スポーツ栄養研究誌に投稿する。 上記アンケートは、2026年8月に開催予定の第12回学会大会までに早期公開し、その内容を学会大会にて会員に発信する。 第12回学会大会で発信した内容を基に、HP、ならびにメールニュースで発信する。

				<ul style="list-style-type: none">・学会事務局ならびに執行部、委員会内部で連携し、賛助会員も含めて情報発信内容を集約し、発信フローに則り、通期を通して情報発信を行う。・2ヶ月に1回の頻度でHP全体を見直し、更新や改訂情報の確認を行う。
--	--	--	--	---